

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習B	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科・普通 第3学年理型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な課題に対して解決できる実力を養成する。
使用教科書・副教材等	数学B(数研出版) 2018 スタンダード 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編(数研出版)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学ⅠAⅡBの各分野の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	観察、課題、小テスト等	10%
b. 数学的な見方や考え方	数学ⅠAⅡBの各分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	20%
c. 数学的な技能	数学ⅠAⅡBの各分野において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	10%
d. 知識・理解	数学ⅠAⅡBの各分野における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
	4	7	ベクトル	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			数列	簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	5	11	図形の性質	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			図形と方程式	座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする	○	○	○	○
	6	11	三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			7	1	第1回考査		○	○
		計30						

前期	7	8	数と式	数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			関数と方程式	方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	○	○	○	○
			式と証明	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	○	○	○	○
	8	4	整数の性質	整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			場合の数・確率	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	9	11	微分法・積分法	微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
10	1	データの分析	統計の基本的な考えを理解するとともに、それをを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	○	○	○	○	
		計24	第2回考査		○	○	○	○
後期	10	7	総合演習	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な課題に対して解決できる実力を養成する。 第3回考査	○	○	○	○
	11	13						
	12	1				○	○	○
		計21						
	12	4	総合演習	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な課題に対して解決できる実力を養成する。	○	○	○	○
1	2							
2								
		計6						

【その他】

①予習について

・必ず解答を見ずに、まず解くこと。解けた問題と解けなかった問題を明確にし、授業で解けなかった問題を確認するようにするとよい。

・発展的内容の問題では、初めて見るような問題も出てくる。そのときに、いかに問題にアプローチしていくかという力が必要である。初めから解答を見ているとそのような力がつかないうえ、内容も定着しない。

②復習について

・一度答案を整理した後、解答を見ずに答案が書けるようにすること。最初は物まねでもよいので、きちっとした答案を作ること。記述の答案は小論文と同じである。いかに相手を納得させるかが大切である。日頃から訓練しておかないと突然ではできない。

③以下のような学習サイクルをつくること。

